

## No.2361

### 花の高原ハイクと活火山

### 霧ヶ峰&焼岳

実施日 2008年7月12日(土)~13日(日)

天候 晴/晴・にわか雨

リーダー 涌井 良明

参加者 服部美千代、一柳昭、馬場清士、  
涌井良明、鈴木恵美子

計5名

費用 交通費 5,300円

宿泊費 11,000円

計 16,300円

タイム 12日 大月駅(7:47~8:00)車霧ヶ峰インター  
(9:30~9:50)車山肩(10:37)車山  
(11:15~11:45 昼食)スキー場十字路  
(12:05~12:38)霧ヶ峰インター  
駐車場-(13:35~13:50)中ノ湯  
温泉(16:00)泊

13日 中の湯(6:00 タクシー)上高地帝国  
ホテル(6:20)焼岳登山口(6:40)休  
(7:13~7:20)水休憩(7:56~8:01)  
焼岳小屋(9:05~9:35 中食)休  
(10:20~10:27)北峰直下・中の  
湯分岐(11:00)焼岳北峰(11:10  
~11:23)北峰直下・中の湯分岐  
(11:30~11:45 昼食)下堀沢出会  
(12:35~12:45)中の湯温泉  
(14:12~15:10)中央道・元八王  
子バス停(19:30)

梅雨明けの様な天候に恵まれて、コピー通りの山行が楽しめた。

渋滞を避けて大月駅で集合、中央高速諏訪インターから、霧ヶ峰駐車場へ。まだ早めの到着のためそれ程混んでいない。既に強い日差しを受けながら、車山へ向かう。ニッコウキスゲは満開には少し早いですがそこそこである。

観光客気分で車山の肩を経由して山頂へとのおんびり登る。

気象レーダードームがやたら存在感のある車山山頂は胎児から中高年まで入り乱れて、三々五々それぞれ楽しんでいる。我々も霞んだ八ヶ岳を眺めながら昼食にした。



食後、花の草原歩きを楽しむが、むし暑さと明日の長丁場を考えて？蝶々深山をカットして駐車場に戻る。

再び、ドライブを楽しみ、松本から R158 で上高地方面へ進み、釜トンネルで左折 10 年前に移転新築された中の湯温泉ホテルへ。

ロビーから霞沢岳の巨大な山容、その奥には明神岳の岩稜が望める立派なホテルである。食事も客対応も満足できたのはうれしかった。



翌朝、6時にタクシーで上高地帝国ホテル前へ。遊歩道の田代橋で梓川を渡り、左へ林道を進むと道標のある焼岳登山口に着く。



殆ど平坦な笹の茂る小道から沢を渡り徐々に登りらしくなるが、標高差を考えると緩い傾斜に先が思いや

られる。ガレた峠沢につきあたり、焼岳本峰が青空に迫力ある姿を見せた、やがてハシゴをいくつか越しながら高度を上げていく。霞沢岳や明神岳も付き合い良く一緒に伸び上が

りを見せてくれる。

しかし焼岳の山頂はなかなか近付いて来ない、後で一気に急登になるのもあまり嬉しくないのだが・・・。

岩壁帯に沿って草付をトラバース気味に進むと長いハシゴが現れる、これを慎重に越し、



短い鎖場を過ぎて、気持ち良い風を受けながら草付の斜面を登り切ると小屋まで 126 歩のペイントを見る。振り返ると相変わらずまだまだ高い焼岳山頂が我々を見下ろしている。



僅かに下った焼岳小屋の前で、軽く中食とした。

小屋の先で左の登りに入るが、ここからが登りの核

心部だろう。10 分程で展望台に着き、素晴らしい展望が開けるが、この先のつらい登りでこの眺望が励みになってくれた。

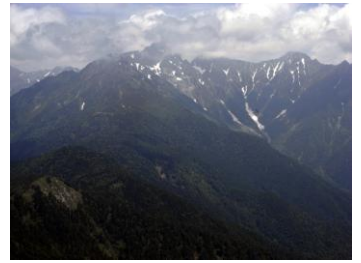
小さく下った鞍部が中尾峠。ここから焼岳本峰の急な登りにかかる。岩交じりのザレっぽい急傾斜で高度を上げるが、つらい登りである、山に楽しんでたらダメよと言われているような気がして来る。それでも頭上高く見えていた硫黄色のガスを出し続ける噴気孔も徐々に近付き、やがて北峰直下の尾根上に這い上がる。中の湯コースの分岐でもあるので、ザックをデポして北峰に向かう。5 分程で山

頂に着く。やったね！ぐるっと眺望は眺め放題である。笠ヶ岳から抜戸岳、割谷山の稜線の先に西穂、奥穂、吊



尾根を経て前穂、更に明神の岩稜や上高地に点在する赤い屋根が見える。

反対側には焼岳の南



峰と爆裂火口にできた正賀池が火山を主張している。

直下の分岐へ戻り、軽く昼食をして、中の湯への下山にかか

る。南峰方面へ鞍部迄下り、道標で左に下る道に入る。こちらの道は幾分傾斜も緩いようで、多少は歩き易い感じである、遠慮がちにイワカガミのピンクが飾る道を岩の○マークに従って下る。

ナナカマドなどの灌木帯に入ると、直接中の湯温泉に下る新中の湯ルートに分岐に出る、(従来ルートは中の湯バス停へ出る)我々は新ルートを取って下るが、突然のわか雨に驚かされる、強い降りだが雷ではなかったのと、丁度樹林帯に入った所だったため気は楽であった。30~40 分程で止んだが、それでも中の湯に着いた時には、濡れ鼠であった。但し、予定通りに温泉につかり、気分も身なりも、さっぱりとして帰途につくことができた。ウフフですね。

山、宿(温泉)、天候、そして良きメンバーと充実した山行ができたことに感謝です。

(記/写真・涌井 良明)

